

富安 亮輔

東京大学大学院工学系研究科建築学専攻 博士課程

仮設住宅で暮らす高齢者のコミュニティ形成とコミュニティケアに関する実証的調査研究

効率を優先し建設された仮設住宅での生活は、阪神・淡路大震災で高齢者や障がい者にとってバリアが多い居住環境であることが報告され、孤立死が顕在化したことからコミュニティの重要性が指摘された。バリアが少ない居住環境とコミュニティ形成の促進を目指す「コミュニティケア型仮設住宅」が提案され、遠野市で実現した。本研究は「コミュニティケア型仮設住宅」の環境評価とコミュニティ形成を実証的に考察している。環境評価としては、リビングアクセス型の間取りや玄関が向かい合う住棟配置の欠点は懸念されたほど居住者から意見は出ず、コミュニティ形成を促進する仕掛けのひとつとして有効であった。特に高齢者が多く住みデッキで住棟がつながるケアゾーンは、コミュニティ形成が早く広がりがあった。また、仮設住宅の空間には仏壇や神棚などの死者を偲ぶ配慮が欠けていること、来客の宿泊のニーズが多数潜在していることが明らかになった。